

平成23年3月

植村佑介 学位論文審査要旨

主 査 中 込 和 幸
副主査 渡 辺 高 志
同 中 島 健 二

主論文

Mild parkinsonian signs in a community-dwelling elderly population sample in Japan

(日本の地域在住高齢者における軽度パーキンソン徴候)

(著者：植村佑介、和田健二、中下聡子、中島健二)

平成23年 Journal of the Neurological Sciences 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は島根県海士町においてアンケート調査、神経学的診察およびアクチグラフィーを用いた活動量計測を行い、神経変性疾患の前駆段階である可能性が示唆されている軽度パーキンソン徴候 (mild parkinsonian sign: MPS) について検討したものである。その結果、MPSの地域における粗有病率は22.1%であり、MPS-severeのスクリーニングには自覚的うつの評価と活動量測定が有用であることが判明した。本論文は、本邦で初めてMPSの頻度を明らかにし、自覚的うつのアンケート調査やアクチグラフィーがスクリーニングに有用であることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。